

令和6年度 教育活動等に対する学校評価書

令和7年 3月27日

学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園 園長 垣本 範子

学校法人アイ・アイ学園 有度幼稚園 学校関係者評価委員長 花崎 年員

1 幼稚園の教育目標

丈夫で生き生きと活動する子

1. 仲良く元気に遊べる子
2. 心持の優しい思いやりのある子
3. 考えて行動できる子
4. 礼儀正しくはきはきした子
5. 工夫して新しい物を作り出そうとする子

2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

見よう 聞こう 触ろう 試そう 子どもはみんな遊び博士

3 自己評価とそれに対する学校関係者評価

	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
1	保育の計画性	B	<p>今年度の重点目標と年間計画を基に、学年主任が学年目標を立て、月案を作成する。各担任は、それを基にすることで、週案・日案の中に、更にクラスの子どもの育ちに合わせたねらいを立てやすくなり、保育が充実してきた。</p> <p>しかし、まだ今までの保育を踏襲することに捉われているところも見受けられる。担任1人1人が、自由な発想で子どもの心を大切にしながら新しい取り組みにも挑戦して行ける環境とチームの関係性が必要だと感じた。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達を見ていて、充実した園生活を送ることができたと感じる。1年間を見ていて、1学期に比べて後半に行事が詰まっているように感じ、もう少し満遍なく行事があると良いと思ったこともあるが、子どもの成長に合わせてカリキュラムがしっかり組まれているのだと理解した。 ・小学校に行くための気持ちづくりは大切だと思うが、環境が変化していくことを不安に感じている子もいる。プレッシャーにならないような言葉がけをしていただけるとよいという意見を聞いている。卒園式に近くなってもう少しゆとりがあると良いのではないかな。
2	保育のあり方 幼児への対応	B	<p>チーム保育の在り方が、職員の中に根付いて来ており、役割を理解して取り組めるようになってきている。</p> <p>共働き家庭が増え、午後の預かり保育を利用する子どもが大幅に増えている中で、それぞれの職員が経験を生かし、午前の支援が必要な子どものための保育や午後の預かり保育にも、しっかりねらいをもって準備し取り組めるよう協力していく必要があると感じる。</p> <p>先生も子どもと同じように、お互いの違いや良さを認め合うことで、より話しやすい、相談しやすい関係性を構築でき、それが保育につながる。明るい雰囲気のある職場となるよう意識改革を進める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育が、そんなに多いとは知らなかった。午後の時間が保育に追われ、準備や打ち合わせができないのは困るが、複数担任で、それを補えるのであれば良いことだと思う。 ・預かり保育は、とても助かる。内容もよく、子どもが楽しいと感じている。 ・先生が抜けてしまう事で心配なことはないのかと思ったが、経験年数などに合わせて、配慮して動いてくださっていることが分かり安心した。 ・複数担任の在り方が、保護者の捉えと少しずれがあると感じる。いつもいてもらえるのではないのかと少し残念に感じてしまう保護者もいると思うので、複数担任制の在り方について説明があるとありがたいのではないかな。

3	教師としての 資質、能力、良識、 適正	B	<p>教職員は全員、有度幼稚園の保育理念を理解し、全力で取り組んでいる。</p> <p>素直で、誰もが良い保育者になるための学びに対し、意欲があると感じる。経験年数の違いで、社会人としてまだ至らないところや気付かない点もあるが、それをカバーするためのチームであることを意識し、必要な場面で必要な人が活躍する職場であってほしい。また、自身でまだ力が足りないと感じている職員もいるので、保護者からの意見や先輩のアドバイスを素直に受け、学んでいくことで成長できると考え努力していけるよう見守る。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね、先生方は一生懸命取り組んでくれている。子どもも毎日楽しかったと帰ってくる。心配なことはない。 挨拶や出会った時の感じが明るく優しい雰囲気のある先生もいれば、中には愛想のない人だなと感じる先生もいる。忙しかっただけだろうと理解できるが、子どもに対しては、いつも同じように接してほしい。 朝、明るく挨拶をしてくれると、安心して送り出せる。 登録先生や、児童係として保育に関わる中では、先生方の話し方や遊びを楽しむ話術や雰囲気の作り方に感心している。 子どもに話しかけるのもプロだなと感じる事が多い。 面接などで、子どもの事をたくさん褒めていただいた。褒められることはとても嬉しいし、やる気に繋がる。 実は、親も褒めてほしいのだと思う。ちょっとした事に対し「お母さんありがとう」などと声をかけてもらえるととても嬉しく、頑張ってたよ良かったと思える。 思っていることを言葉にすることの大切さを感じた。
4	保護者への対応	C	<p>共働きの保護者が増加するに伴い、午後の預かり保育の子どもが増え、関わる先生の数も数年前の3倍となった。</p> <p>国の方針として、保護者との連絡手段についてICT化が推進されてきたため、有度幼稚園も取り組むことを決めた。園の考え方とすべての要望に応えきれないこともあり、お互いに忙しい環境の中で、どのように対応をしていくことが良いのか模索を続けている。</p> <p>保護者に伝えたい情報、知ってほしい情報がある一方で、保護者が知りたいと思う情報もあるので、今後も保護者会とのコミュニケーションを積極的に活用し、改善に取り組んでいく。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 出欠席などICT化は、とても助かる。時間を気にしないで、空いた時間に入力できる。 クラス便りやInstagramなどで、保育の様子ができるのはとても嬉しい。クラス便りは、文字ばかりだと「後で読もう」となってしまう、結局、読まないことも多い。 写真がクラスによって少し偏りがある。撮影に時間を取るのは大変だと思うが、手分けをするなどして、撮影してもらえると嬉しい。 感染症の広がりがあった時は、早めに知りたい。クラス単位でも教えていただきたい。 有度幼稚園に入って、クラスの先生に限らず、色々な先生が子どもの名前を呼んでくれて驚いた。 事務の先生が、子どもや保護者の名前を入園の前から覚えてくれて声をかけてもらったことがあり、とても嬉しかった。 たくさんの先生が、卒園した兄弟関係も忘れずに声をかけてくれて嬉しい。

5	地域の自然や社会とのかわり	B	<p>地域の小学校との連携が形になってきている。お互い忙しい中ではあると思うが、協力できる体制を作って取り組めたと感じる。</p> <p>地域との関係の中では、先生方の業務に負担をかけることが無いよう、地域の方々とコミュニケーションをとりながら進めることができた。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・里山遊びを3年間通して経験できた事は、大きな財産である。 ・里山遊びでは、先生方が遊びのポイントをわかりやすく伝えてくれるので、参加するのはとても楽しい。先生方が下見や研修こまめにしてくれていると聞き、ありがたいと感じる。 ・マラソンを小学校のグラウンドでできるのはとても嬉しい。安全にのびのび走れるだけでなく、子どもの中で小学校に対して親しみもわいているようだ。 ・地域の行事などは、100%参加できることばかりではないが、できる限り参加していく事で十分だと思う。 ・港まつりは、夜の活動であるにもかかわらず、安全対策などしっかり講じていただき貴重な体験になったうえに、とても楽しめていた。
6	研修と研究	B	<p>今年は、グループ研修として「ごっこ遊び」に視点をおいて研修をすすめたが、研修に全員が一度に参加する環境を作ることができなかった。今後は、どのように園内研修を進めるかが大きな課題である。</p> <p>森遊びの研修は、時間を作るのに苦労したが取り組んでよかったと感じる。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方が里山遊びに対し、何度も下見や研修をしてくれていることがわかり、感謝している。 ・どのような研修をしているのか、保護者に伝えてみるのはどうか。 ・先生方で行った、劇団四季を観劇する研修も子ども達の完成を育てる保育者として大切な研修だと感じる。
7	外部アンケート	B	<p>17の問いの中で、幼稚園に行くのを楽しみにしているか好きな遊びを楽しんでいるか困ったことを先生に伝えられているか思ったことを友だちに言えているかという問いに対し、数名あまり当てはまらないが見られた。</p> <p>頑張っているように見えても、心の中で先生に甘えたい気持ちを我慢している子もいると言う事を常に頭の片隅において保育していきたい。</p> <p>その他の項目は、概ね一番良い評価を頂けた。今後も、窓口を大きくしコミュニケーションを大切に、保護者の方と一体となり子どものための保育を進めていけるように努力する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか、全員の子どもの達を見ていくのは難しいことだと思う。子どもも、自分で解決していく力を持つことも必要なのではないかな。 ・大変だとは思いますが、不安だと感じる保護者の思いに寄り添ってもらえたら嬉しい。 ・よくやってくれていると思う。これだけの行事の中で、よく見ている。 ・年少の時は不安もあったが、年長になれば皆しっかりしてくる。自分の思いも伝えられるようになっていないかな。年少など、初めての保護者の方に、子どもの様子を伝えていく方法を工夫してみてもどうか。 ・先生や友達に自分の思いを伝えられないという子どもがいるという事を、しっかり受け止めていただき、丁寧に接していただけると嬉しい。 ・活発な子や手のかかる子に意識が向かいがちではあるだろうが、意外とおとなしくて手のかからない子どもも、色々な思いがあり、寂しいと感じている時もあるのではないかな。

*結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取り組みが不十分である。

4 本年度の重点目標の総合的な評価結果

重点目標 「 見よう 聞こう 触ろう 試そう 子どもはみんな遊び博士 」

今年度は、有度幼稚園の特色であるポジション遊びを改めて見直してみよう！という思いで、一つ一つにねらいを決めて進めてみようと呼びかけた。取り組んだ先生たちから、時々意識することでマンネリ化していた環境を見直すきっかけになったという意見が出た。毎日同じポジションに通う子、そこで育まれる友だち関係、つぶやきなど、クラスを超えて先生方で子どもを見る機会となり、そこでの情報が担任にフィードバックされることもたくさんあった。しかしそのような中、環境づくりに欠かせない子どもの育ちを、エピソードとして起こす事に苦手さを感じている先生方が多いことにも気づけた。次年度は、育ちを伝えるエピソード記録の付け方を学び、研修を深めたいと考える。

5 学校評価委員より総合的コメント

概ね、良い評価と考えてよいのではないかと。課題もあるようだが、先生方がそれをしっかりと受け止めて、改善しようと考えてくれていることが、自己評価の結果からも伺い知ることができた。今後も子どもの心を大切にする有度幼稚園の保育を変わらず続けてほしい。

6 4年間という長い間、受け継がれてきている有度幼稚園の保育のすばらしさを改めて感じる。先生方の経験の幅をお互いの持つ力で、サポートし合うという考え方、大人は子どものためにトラブルが起きない様にしてあげるのではなく、一緒に悩み子ども達にトラブルをどう乗り越えるのかを考えられる力を育てたいという思いにも共感できた。

最近の社会状況から、安全面や心のサポートなど課題はあると思うが、今後もこの思いで子ども達のために頑張っていってほしい。